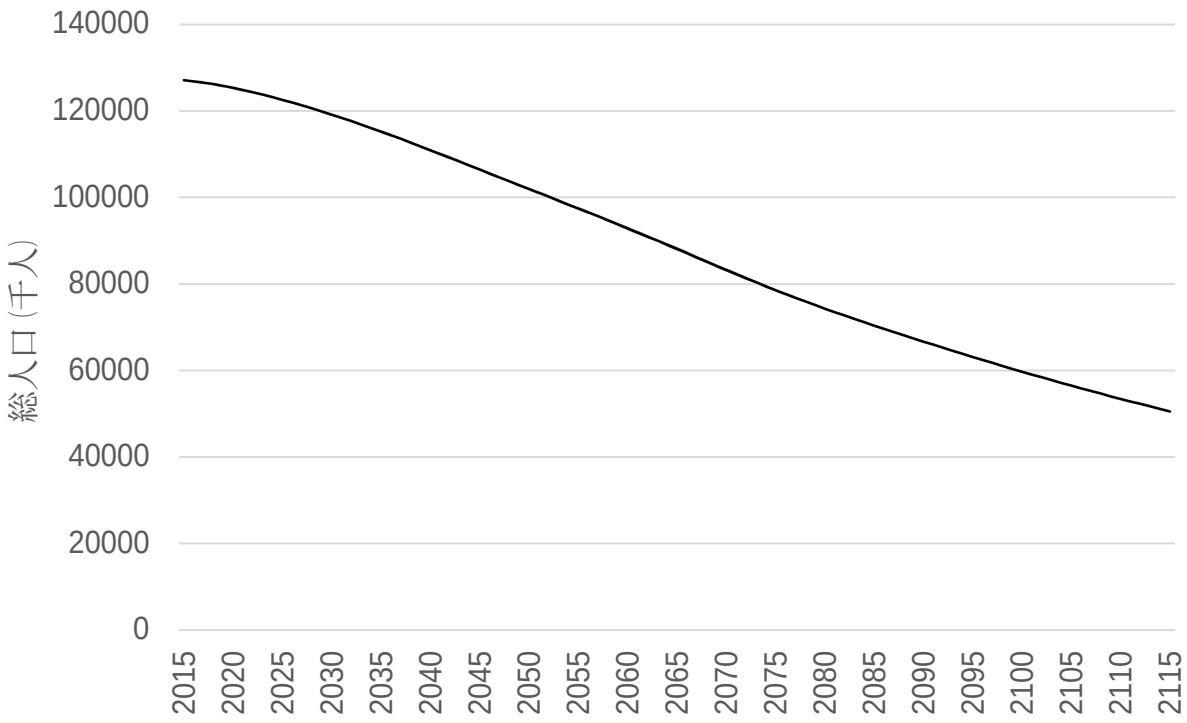
2019年2月10日：伊折区太田公民館

参考資料4

戦略的に考えるとは

金沢大学人間社会研究域人間科学系・准教授
特定非営利活動法人国土利用再編研究所・理事長
博士（農学）　林　直樹

楽観は禁物



日本の総人口（出生中位・死亡中位）

国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口（平成29年推計）』
http://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/db_zenkoku2017/db_s_suikeikekka_1.html

「恵まれた過疎」から「厳しい過疎」へ

第1章　戦略論入門

本日いきなり戦略を話し合う必要はありませんが、これを意識しておくと話し合いの質がより建設的になるはずです。

身近な戦略論

アルバイトで旅行資金をためながら、夏の旅を考える場合

・行き先に関する方針を決める（戦略）

　・第一希望は北海道1週間周遊。お金がたまらなかったら金沢市1泊2日の旅。

・そこに向かうルートや宿を探しておく（計画／技術論）。

高校生が大学入試を考える場合

・志望校に関する方針を決める（戦略）

　・第一志望は国立大学。夏になっても数学の偏差値が低い場合は、第二志望の私立文系（数学がない）に変更。

・効率的な勉強法を探す（計画／技術論）。

・就活や婚活も同様。

戦略的に考えるために

「先のことわからない」という認識を持つ。

複数のゴールとその採用条件をあらかじめ決めておく。
成り行き任せの目標変更ではない。

厳しい状況での「保険」「セーフティーネット」が特に重要。

最後まで思考を止めない。神頼みだけではダメ。

むらづくりを戦略的に考えるとは

・どのような場合に必要？
→先がわからない長期的な生き残りなどを考えるときに必要。
長期的：数十年以上の時間スケール

・どうすればいい？
①ものごとに優先順位をつける（最悪の状況にヒントあり）。
②譲ることができないラインを明確にする。
③優先順位の低いものを削り、青写真を複数描く。

最悪の状態（最優先のみ死守）から考えるほうが楽。

青写真の例を収集することも大切。バラ色の設計図だけではダメ。

例：田畑の将来を戦略的に考えてみよう

・優先順位１：後生の人々の選択肢（備考：四方が太陽光パネルのがれきの山）
・優先順位２：田畑としての「土」
・優先順位３：田畑として使用すること

…

・１番のみを死守する場合（最も厳しい状況を想定した保険）
　・所有者があやふやな土地を確認
　・土地利用の方針を決めておく

・１番２番を守る場合
　・放牧などで広範囲を草地として維持する（復旧容易）。
　・所有者があやふやな土地を確認
　・土地利用の方針を決めておく

田畑の粗放的な管理

現状維持

粗放的な管理(放牧)

放棄(わるい選択肢ではない)

・粗放的な管理:田畑としての土地の潜在力を低コストで維持。
例:ウシを放牧し、雑草地として維持する。
→比較的短期間で復旧可能

戦略的な考え方への疑問

・保険的なものがあると、気が緩み、むらおこしへの努力を怠るようになるのでは？

→責任ある社会人なら

・自動車保険に入っても安全運転の手を緩めることはない。

・医療保険に入っても暴飲暴食をはじめることはない。

→逃げ場を奪うことで瞬発的な力が発揮されることがあるが、長期的には消耗と思考停止を呼び込む可能性がある。

第2章　諦めない人たち

どのような厳しい状況でも諦めない人たちの姿を見てみましょう。
「諦めない思考」の底力を感じてください。

無住化保険付きの農村：小松市西俣

・定住者は１０人と少々、最年少は70歳代なかば。
・転出した人々（外部旧住民）が草刈りなどの貴重な戦力に。
・離村二世もお祭りに参加→世代的な継承へ。

無住化しても、それなりに維持される可能性が高い（保険的）。→共同体や土地が健在なら、将来的な再興も可能。

無住だが田畑が維持されている例：北秋田市（旧）小摩当

秋田県北秋田市。1972年、ふもとの小学校跡地に移住。写真左側は跡地の耕地、右側は移住先（いずれも2015年の状態）。

参考：佐藤晃之輔『秋田・消えた村の記録』無明舎出版、1997

通勤耕作も一つの完成形

無住状態からの再居住化の例：京都市左京区大原大見町

1973年、集団離村により無居住化したが、2008年、元住民の子孫が移住した。

参考：松崎篤洋・山口純・本間智希・川勝真一・北雄介「大見村における無住化集落再生活動の発足と展開―京都市北部における無住化集落再生活動（その2）―」『日本建築学会大会学術講演梗概集』7-8、2015

→ただし、冬期は無居住（関係者からの聞き取り）。限定的な再居住化。

石碑が頼りの「津江」

小松市・津江：
訪問困難、石碑が唯一の頼り。

第3章　国民全員から必要とされるむら

撤退の農村計画
ISRR：Institute of Strategic Rural Reorganization

究極の保険：民俗知

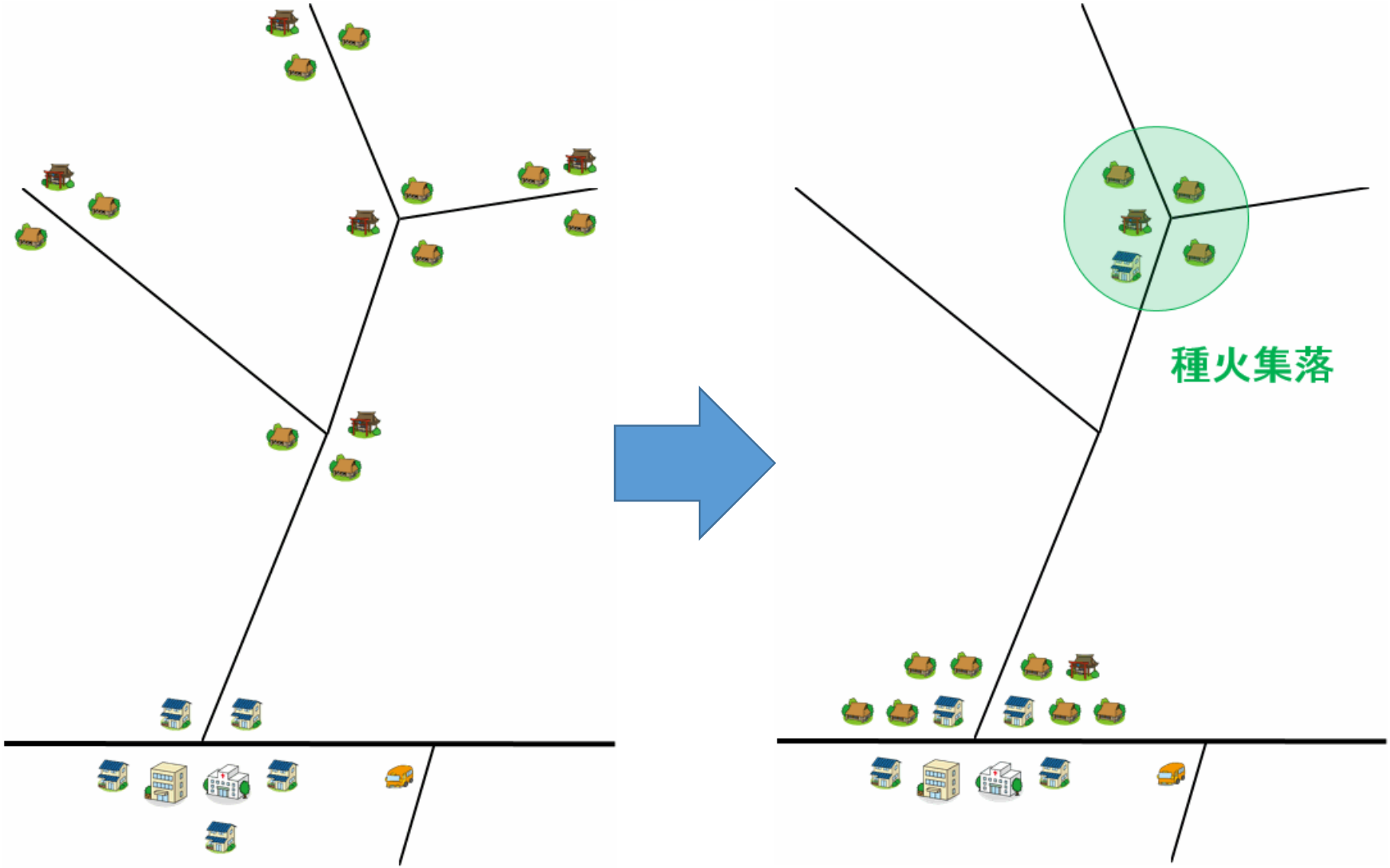
・山野の恵みを持続的に引き出す「文化的な技術」（民俗知）
・人さえ住んでいれば自動的に保持されるということではない。

万が一の長期的な食料不足、エネルギー不足に対する備え（国民的な保険）とみなすことができる。

撮影：永松敦氏（許可を得て使用しています）

撤退の農村計画
ISRR：Institute of Strategic Rural Reorganization

少ないマンパワーで民俗知を継承



遺伝子資源減少対策としても効果的

議論を不毛なものにする方法

- I WANT（わたしはこうしたい）
- I WILL（わたしはこうする）
- I CAN（わたしはこれができる）
- We SHOULD（わたしたちはこうすべき）

上の4側面のぶつけ合いに持ち込むと不毛になります！